

事業所名 小規模多機能居宅介護「笑楽日」・グループホーム「風楽里」

運営推進会議 開催報告書

開催日時 令和8年6月17日		風楽里アルコーブにて
当日あつまって頂いた委員の皆様		議 題
利用者	5人	①自己紹介 ②活動状況報告. スライドショー  ・ 身体拘束適正化検討委員会
利用者家族（風楽里）	1人	
// （笑楽日）	1人	
知見者	1人	
市職員	1人	
地域包括支援センター	2人	
地域住民の代表者	1人	
事務局	3人	
職員介護従事者	0人	

1 自己紹介

2 活動状況報告 笑楽日、風楽里の日常の様子を、スライドショーや活動状況報告書を読みながら報告。

事務局・・・過ごしやすい季節となり、皆さんの体調もよく、戸外に出たり、様々なレクリエーションを楽しんでおります。

委員の方からのご意見をお願いします。

ご家族・・・外出の機会が増えることはとても良いことと思う。

事務局・・・隙間時間なども有効に活用して、個別の対応もしています。

ご家族・・・ドリアン試食会、楽しめましたか。

事務局・・・利用者さんも職員も、楽しい異文化体験ができました。

ほかの運営推進会議で話し合われていることはありますか。

地域包括・・・季節柄、感染症対策でおこなっていること。節電に関する工夫や対策について話題になっています。

事務局・・・大変参考になりました。

・身体拘束適正化委員会

事務局・・・ただいまから身体拘束適正化委員会を開きます。委員の方引き続き宜しくお願いします。

本日は、夜間のベッドからの転落に関する事例を挙げさせていただき、ご意見を伺いたいと思います。

片側麻痺、言語の障害があり、コミュニケーションが困難な方が、夜間に転落を繰り返し、ベッドで横になれない日々。

朝まで、訴えどおりに車いすで過ごすこともある。

医師やご家族との連携も密にとっており、ご本人の気持ちに寄り添いながら安心した生活を送っていただくためには、どのような介護が必要か。

地域の代表・・・けがをしてはいけませんが、病院ならば治療目的が最優先としてベッドから転落しないように拘束することはあると思う。ただここは介護施設であって、悩ましいことだと思う。

ご家族・・・限られた人員の中で、ずっとそばにいることは不可能なのでリスクはあると思う。

事務局・・・そばについていてもやはりご本人の満足は得られず、どうしたいのか、なぜか。現時点での対応策として  
起き上がったときにすぐ駆け付けられるように床センサーを設置。  
ベッドを最低床にする。床に布団を敷いて段差をなくす。  
ベッドからの転落を事故報告として毎回記録に残す。  
こまめな様子観察をして、情報を共有することを行っております。

高齢福祉課・・・このような場で意見交換をしたり、職員間での情報共有をきちんとされており、良いと思います。

事務局・・・今後もいろいろなご助言をいただきたいと思います。

報告者 伊丹